

2025 年度（対象年度：2024） 自己点検・評価シート

基準3 教育研究組織

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
302	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」での研究者及び研究内容紹介の充実
302	科研費等への取り組みを主とした研究内容紹介のポスター掲示の充実

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項
なし

<【参考】2020 年度 認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価（現状）
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織（附置研究所、センター等）を構成しているか。	A
302	教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいるか。 ①研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上まっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 ②点検・評価の結果を活用して、研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

301① 学則第1条の目的を達成するため、学則第70条の規程に基づき、大学の附属施設として、4つの附置研究所および人間・科学・宗教総合研究センター（以下、「人間総研センター」という。）ならびに世界仏教文化研究センター（以下、「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している [301 ア]。

附置研究所は、本学の教育理念・目的に基づき編成された学部・研究科に応じて設置している [301 イ]。

人間総研センターは、本学が所有する研究資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的として設置している [301 ウ]。

世仏研センターは、仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し、現代世界の切実な諸課題に応え得る指針を提示することで、国際交流の推進、教育への還元と社会への貢献を目的として設置している [301 エ]。

また、毎年度、学部長会及び全学研究政策会議において、「教育研究組織の編制原理」に基づき、「龍谷大学研究活動に関する指針」「研究支援の方針」「附置研究所の編制原理」「人間総研センターにかかる編制原理」を確認している [301 オ、301 カ]。

以上のことから大学の理念・目的に照らして、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であると評価する。

302① 附置研究所および人間総研センター・世仏研センターは、それぞれの目的を関係諸規程に定めている。また、その目的に照らし、それぞれの運営委員会等において、毎年度、研究活動の内容および進捗状況の報告に基づき点検・評価している。これらの研究組織の点検・評価は、次のとおり行っている。

〔附置研究所〕 毎年度、研究活動の内容及び進捗状況の報告にもとづき点検・評価している [302 ア]。

〔人間総研センター〕 人間総研センターが所管する戦略的な研究プロジェクト（龍谷フラッグシップ研究プロジェクト及び学際的研究プロジェクト）は、「人間・科学・宗教総合研究センターの戦略的な研究プロジェクトに係る運営内規」に基づき、毎年度、プロジェクトの進捗状況を確認している。また、第1フェーズの最終年度（龍谷フラッグシップ研究プロジェクトは4年目、学際的研究プロジェクトは2年目）には、第2フェーズでの研究活動継続の可否を判断する中間評価を実施することとしている [302 イ、302 ウ、302 エ]。

〔世仏研センター〕 各研究プロジェクトからの研究活動の内容及び進捗状況の報告に基づき点検・評価を行った [302 オ]。

302② 人間総研センターでは、2024年度4回全学研究政策会議において、2026年度から研究を開始する「学際的研究プロジェクト」2件の募集概要等を整備し、募集を開始した [302 カ、302 キ]。

また、本学研究組織にかかる研究広報ウェブサイト「Academic Doors」にて本学研究者の特色ある研究内容を分かりやすく紹介することで、本学研究に対して関心の高い層から理解や共感を得ることができている [302 ク]。一方で、より多くの層に対し、本学研究の認知度向上と外部資金への積極的な申請促進を目的として科研費等を原資とした研究内容紹介のポスターを学内に掲示した [302 ケ]。

以上のことから教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいると評価する。

長所・特色《箇条書き》＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの

302 「龍谷フラッグシップ研究プロジェクト」及び「学際的研究プロジェクト」の推進

302 研究広報ウェブサイト「Academic Doors」での研究者及び研究内容紹介の充実

課題事項《箇条書き》＊伸長すべき点、改善すべき点

項目 No.

項目 No.

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み ＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

・研究広報ウェブサイト「Academic Doors」での研究者及び研究内容紹介の充実

研究分野の多様性を考慮し、年間10人の教員を取材し、同サイトにおいて研究内容を紹介し、17,433回（前

年度 14,843 回) のアクセスを得た。

- ・ 科研費等への取り組みを主とした研究内容紹介のポスター掲示の充実

本学研究者が研究代表者を務める研究課題の中から種目や分野も考慮しつつ、8 件をピックアップし、3 キャンパスのロビー等に設置した。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
302	人間・科学・宗教総合研究センターが所管する学際的研究プロジェクトにおける中間評価の実施

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	ア	研究関連組織図
301	イ	各附置研究所の規程
301	ウ	人間・科学・宗教総合研究センター規程
301	エ	世界仏教文化研究センター規程
301	オ	「教育研究組織の編制原理」「龍谷大学研究活動に関する指針」「研究支援の方針」「附置研究所の編制原理」「人間総研センターにかかる編成原理」
301	カ	2024（令和 6）年度第 1 回全学研究政策会議議事録
302	ア	各附置研究所の研究プロジェクトの評価要項
302	イ	人間・科学・宗教総合研究センターの戦略的な研究プロジェクトに係る運営内規
302	ウ	龍谷フラッグシップ研究プロジェクト・学際的研究プロジェクト研究進捗点検 評価要領
302	エ	学際的研究プロジェクト事業評価（中間評価）要領
302	オ	世仏研センターの研究プロジェクトの評価要項（基礎・応用・国際研究部門）
302	カ	2024（令和 6）年度第 4 回全学研究政策会議議事録
302	キ	2026（令和 8）年度学際的研究プロジェクト募集要項
302	ク	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」 https://academic-doors-ryukoku.jp/
302	ケ	科研費採択事業紹介ポスター

II. 評価結果

総評
・ 大学の附属施設として、4 つの附置研究所、人間・科学・宗教総合研究センター（以下「人間総研センター」という。）、世界仏教文化研究センター（以下「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している。附置研究所、人間総研センター、世仏研センターは、毎年度、それぞれの研究活動及び進捗状況を点検・評価している。戦略的な研究プロジェクト（龍谷フラッグシップ研究プロジェクト及び学際的研究プロジェクト）は、「人間・科学・宗教総合研究センターの戦略的な研究プロジェクトに係る運営内規」に基づき、毎年度、プロジェクトの進捗状況を確認している。また、第 1 フェーズの最終年度（龍谷フラッグシップ研究プロジェクトは 4 年目、学際的研究プロジェクトは 2 年目）には、第 2 フェーズでの研究活動継続の可否を判断する中間評価を実施することとしている。また、毎年度、学部長会及び全学研究政策会議において、「教育研究組織の編制原理」に基づき、「龍谷大学研究活動に関する指針」「研究支援の方針」「附置研究所の編制原理」「人間総研センターにかかる編制原理」を確認している。 ・ 附置研究所および人間総研センター・世仏研センターは、それぞれの目的を関係諸規程に定めている。また、その目的に照らし、それぞれの運営委員会等において、毎年度、研究活動の内容および進捗状況の報告に基づき点検・評価している。これらの研究組織の点検・評価も行っている。 ・ 人間総研センターでは、2024 年度 4 回全学研究政策会議において、2026 年度から研究を開始する「学際的研究プロジェクト」2 件の募集概要等を整備し、募集を開始した。また、研究広報ウェブサイト「Academic Doors」

にて本学研究者の特色ある研究内容を分かりやすく紹介することで、本学研究に対して関心の高い層から理解や共感を得ることができている。2023 年度に引き続き、より多くの層に対し、本学研究の認知度向上と外部資金への積極的な申請促進を目的として科研費等を原資とした研究内容紹介のポスターを学内に掲示している。

以上、大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であると評価できる。併せて、教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいると評価できる。

長所・特色

・開設している研究広報ウェブサイト「Academic Doors」での本学研究者及び研究内容を紹介、充実させている。研究分野の多様性を考慮し、年間 10 人の教員を取材し、同サイトにおいて研究内容を紹介し、17,433 回（前年度 14,843 回）のアクセスを得ている。

・科研費等への取り組みを主とした研究内容紹介のポスター掲示を充実させている。本学研究者が研究代表者を務める研究課題の中から種目や分野も考慮しつつ、8 件をピックアップし、3 キャンパスのロビー等に設置している。

課題事項 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

2025 年度（対象年度：2024） 自己点検・評価シート

基準3 教育研究組織

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	「3 つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な見直し

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項
学問の動向や社会的要請など外部環境に配慮した、全学的な組織の編成・設置に関する検証が望まれる。【留意点】

<【参考】2020 年度 認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価（現状）
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の理念・目的を踏まえ、また、学問の動向や社会的要請等に配慮したうえで、教育研究組織(学部・研究科等)を構成しているか。	A
302	教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいるか。 ①教育組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上まっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。 ②点検・評価の結果を活用して、教育組織に関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。

- 301① 学部、研究科の設置に際しては、「建学の精神」の具現化と「龍谷大学の教育理念・目的」[301 ア]との適合という観点に基づき、設置の必要性について審議が重ねられ、最終的に評議会で承認する体制をとっている。また、「建学の精神」と「龍谷大学の教育理念・目的」に基づいて、各学部、研究科の理念・目的が策定され、それらは「龍谷大学学則」「龍谷大学大学院学則」に定められている [301 イ]。
- 教育組織の編制は、「龍谷大学の教育理念・目的」と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を明示した「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」[301 ウ]、「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）[301 エ]、「教育研究等に係る施設設備に関する整備方針」[301 オ]に基づき、行われている。2024年度については、社会学部のキャンパス移転・改組及び短期大学部の発展的解消並びに瀬田キャンパスの新たな展開を契機として、2027年4月に瀬田キャンパスに新たに「環境サステナビリティ学部」（仮称）と「情報学部」（仮称）を設置する計画を決定した [301 カ]。
- 302①② 教育組織に関わる事項に係る点検・評価については、「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」に係る検証を中心に、「3つの方針検証委員会」（学部）および「大学院教学会議」において継続的な確認と見直しを行った [302 ア] [302 イ]。これら点検・見直しの結果については、各教学主体における教育活動の改善・向上に繋がっている。
- 2024年度は、教育組織に関わる事項の全学的な改善・向上にかかる取り組みとして、学問の動向や社会的要請など外部環境等を配慮した教学組織再編を検討し、2027年4月に瀬田キャンパスに新たに「環境サステナビリティ学部」（仮称）と「情報学部」（仮称）を設置する計画を決定した [302 ウ]。
- 以上のことから、教育研究組織の設置状況およびその組織にかかる点検・評価に関して、適切に行われていると評価する。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの

301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」等の策定による教育組織の編制原理の明確化
------	--

課題事項《箇条書き》*伸長すべき点、改善すべき点

--	--

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
301①	「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」に係る見直しに関して、「3つの方針検証委員会」（学部）および「大学院教学会議」において継続的な確認と見直しを行った。
302①	学問の動向や社会的要請など外部環境等を配慮した教学組織再編として、2027年4月に瀬田キャンパスに新たに「環境サステナビリティ学部」（仮称）と「情報学部」（仮称）を設置する計画を決定した [302 ウ]。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301① 302①	「3つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な見直し

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	根拠資料の名称
301	ア	龍谷大学の教育理念・目的 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html
301	イ	龍谷大学学則/龍谷大学大学院学則
301	ウ	「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html
301	エ	「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」 https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/policy/index.html
301	オ	教育研究等に係る施設設備に関する整備方針
301 302	カ ウ	「情報学部」（仮称）及び「環境サステナビリティ学部」（仮称）の設置について（提案）（2024年度第10回評議会資料）
302	ア	2024年度 第3回 3つの方針検証委員会資料
302	イ	2024年度 第10回大学院教学会議資料

II. 評価結果

総評
学問の動向や社会的要請など外部環境等を配慮した教学組織再編として、2027年4月に瀬田キャンパスに新たに2学部を設置する計画を決定した点は評価できる。また、「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」に係る見直しに関して、「3つの方針検証委員会」（学部）および「大学院教学会議」において継続的な確認と見直しを行った点も評価できる。
長所・特色
・「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」について、「3つの方針検証委員会」および「大学院教学会議」において継続的な確認と見直しを行った点
課題事項 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載